

『多様性と受容』（『下商新聞』、令和4年3月1日）

校長 久保田 力哉

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。本校入学以来3年間あるいは4年間で大きく成長された皆さんに、心からの祝意と敬意を表します。

本年度も新型コロナウイルスの影響により、学習や学校行事、部活動などに制約や変更がある中でしたが、皆さんは、たゆみない日々の努力と精進を積み重ね、見事に自らの進路実現を果たされました。

さりながら、その陰には、深い愛情をもって見守ってくださった御家族の方々や先生方、友だちなど、多くの人たちの支えや励ましがあつたことも心に刻み、感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。

また、本日をもって、本校の卒業生は3万人を超えました。さらに、定時制課程においては、昭和27年に設置されて以来の70年という長い歴史を閉じます。昼間に働きながら、夜間に学校で学ぶことは、決して容易でないことは言うまでもありません。本校定時制卒業生の皆さんの、たゆまぬ努力と不撓不屈の精神に、ここに改めて敬意を表するとともに、皆さんが築いてこられた輝かしい伝統を全日制で確かに継承し、本校の更なる発展に結びつけてまいります。

さて、近年、日本でもダイバーシティという言葉が浸透しつつあります。ダイバーシティとは多様性を意味し、人種・性別・年齢などに関係なく、全ての人々が自分の能力を発揮して生き生きと働くことのできる社会のことです。

ダイバーシティの歴史はアメリカから始まると言われていますが、アメリカの第35代大統領であるジョン・F・ケネディは、次の言葉を残しています。

互いに相違点があることは認めよう。たとえ今すぐ相違点を克服できないにしても、少なくとも多様性を認められるような世界を作る努力はすぐできるはずだ。

43歳の若さで大統領に就任したケネディは、キューバ危機回避、アポロ計画の推進等、多くの功績を残していますが、戦争・偏見・貧困・差別などの問題を解消するために、「ニューフロンティア」政策を打ち出したことも忘れてはなりません。

惜しむらく、1963年、ケネディは凶弾に倒れてしまいますが、アメリカでは翌年、公民権法が成立し、人種差別撤廃やマイノリティへの機会平等化が徹底され、雇用面でも機会均等の義務付けがされるなど、状況は大きく進展しました。

このことが契機となり、ケネディの言葉どおり、アメリカを含め全世界が、人々の多様性を認めていく社会の実現をめざしていくこととなります。

加えて、近年では、ビジネスシーン等でも「ダイバーシティ&インクルージョン」という言葉を耳にするようになりました。

インクルージョンとは、多様な人々が互いに個性を認め、一体感を持って働いている状態を意味します。つまり、ダイバーシティ&インクルージョンは、性別、年齢、国籍などが違う人々に、それぞれの個性や能力に応じて活躍できる場を与えよう、という考え方であり、人々の多様性（ダイバーシティ）を認め、受容（インクルージョン）して生かす、という意味になります。

私たちは、人口減少やA I、ビッグデータ等、先端技術が高度化して社会生活に取り入れられた Society 5.0 と呼ばれる時代の到来や新型コロナウイルスとの共存等、複雑で予測困難な時代を生き抜いていかなければなりません。

皆さんは、これからの社会を作り上げていく主役です。これからも自分の良さや可能性をしっかりと認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を確実に乗り越え、ともに豊かな人生を切り拓いていってほしいと願います。

終わりにになりましたが、保護者の皆様方におかれましては、お子様の御卒業、誠に御礼申し上げます。お子様の健やかな成長を願って支えてこられた皆様には、さぞや御苦労も多かったことと拝察いたします。この佳き日を迎え、立派に成長されたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。教職員一同、心よりお喜びを申し上げます。これまで本校にお寄せいただきました御支援、御協力に、ここに改めて深く感謝を申し上げますとともに、今後とも本校の教育に益々のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、卒業生の皆さんの前途に幸多からんことを祈念いたしまして、はなむけの言葉といたします。